

威儀^{いぎ}を犯^{ぼん}せず

ご門徒のご法事にお参りに行きましたら、参詣の人からお尋ねがありました。「どうしてお衣を着替えるのですか？」と。私はお衣を着替えることは当たり前のこととして特に考えておりませんでした。法要の重さによって装束を替えるということが本来の意味なのかもしれませんが、その時私が思いつきましたことは「気分転換」です。道中着から御経^{どくじゆ}を読誦する装束に着替えることによって、自分の気持ちを切り替えていくのです。

これは、僧侶・参詣者を問わず、そのようにしているのではないのでしょうか。普通の時は普段着、特別な時は礼服・式服を着ます。着替えに伴う気持ちの変化は誰もが感じているところなのではないかと思います。行事に対する自分の姿勢態度を服装であらわしているのでしょうか。姿勢態度がきちんとした服装を要求することもありましょうし、服装が態度の反省を促すということもあるように思います。

ご門徒のお婆さんに聞いたことがあります。「昔はお寺の報恩講にお参りに行く時は、黒の絵羽織を着て正装で参詣したものです」と。色々な想いが想像できますが、これは『仏説無量寿経^{ぶつせつむりようじゆきやう}』に説かれる「汝^{なんじ}、起ちて更に衣服を整え合掌^{がっしょう}恭敬^{くぎやう}して、無量寿仏^{むりやうじゆぶつ}を礼したてまつるべし^{らい}」ということを承け伝えてきたのだと思います。

お装束、お衣の乱れを直すことを「威儀を直す」と申しております。威儀とは作法にかなった立ち居振る舞いと説明され、要は生活態度を言います。お釈迦様は正しい信仰を得るために、「威儀を犯してはならない」と教えています。

「威儀を直す」ことを意識し持続することで養われる大切な心があるのだと言われるのでしょう。